

愛知学院大学歯学部倫理委員会

平成 31 年度第 4 回会議 次第

令和元年 11 月 7 日（木）15：00～

I. 報 告

1. 平成 31 年度第 3 回倫理委員会議事録（案）（令和元年 9 月 5 日）
2. 委員長決裁について（2 件）
3. 研究等終了（中止）報告書について
4. 愛知学院大学歯学部倫理委員会新委員の選出について
5. その他

II. 協 議

1. 委員長決裁案件について（上記報告の 2 件）の承認
2. 新規申請の審査（7 件）
3. その他

歯学部倫理委員会 名簿

	氏名	所属等	委員区分(選出母体)	任期
	本田 雅規	口腔解剖学講座教授	規程第4条(1)基礎系講座専任教員	2019.4.1～2021.4.1
	池田 やよい	解剖学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
	長谷川 義明	微生物学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
◎	前田 初彦	口腔病理学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
	長尾 徹	顎顔面外科学講座教授	規程第4条(2)臨床系講座専任教員	2019.4.1～2021.4.1
○	武部 純	有床義歯学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
	野本周 嗣	外科学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
	松原 達昭	内科学講座教授	〃	2019.4.1～2021.4.1
	高木 敬一	法学部教授	規程第4条(3)学識経験者	2019.4.1～2021.4.1
	黒神 聰		〃	2019.4.1～2021.4.1
	柿田 憲広	金城学院大学非常勤講師	規程第4条(4)一般人	2019.4.1～2021.4.1
	鏡山 典子	愛知教育大学教育 学生・国際課 なんでも相談室	〃	2019.4.1～2021.4.1
顧問	鈴木 慎太郎	法学部教授		2019.4.1～2021.4.1

平成31年度 第4回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

1	実施責任者	有地 榮一郎
	研究課題	口腔腫瘍学会共同研究委員会ワーキンググループ 口腔癌深達度(DOI)の画像評価
	概要	2016年に全面改訂されたAJCC(アメリカがん合同委員会)、UICC(国際対がん連合)では口腔癌の病気分類のT(原発巣)の評価において、腫瘍サイズに加え、浸潤深度depth of invasion(DOI)の概念が追加されました。本邦でも口腔癌取り扱い規約第2版においてDOIが導入されています。DOIは病理組織学的に隣接する正常面膜基底膜の仮想表面から腫瘍の最深部までの距離と定義されています。視診・触診では正確な評価が行えず、画像診断が必須となります。一般に利用されているCTやMRIでは正常粘膜を特定困難のため、計測は不正確です。口腔内超音波検査は浸潤先端を特定でき、早期舌癌に対する浸潤範囲の評価を含め、計測手法に関する検討は十分ではありません。 本研究は、口腔癌の中で最も高頻度に認められる舌癌を対象に、原発巣の病理組織学的所見と詳細に比較することで、口腔内超音波画像におけるDOIの計測の妥当性を検証することを目的とします。
実施責任者	有地 榮一郎	
	研究課題	滑膜性骨軟骨腫症のCT所見に関する後ろ向き研究
	概要	顎関節に生じる滑膜性骨軟骨腫症(synovial chondromatosis;以下SC)は関節腔の拡大や関節腔内に石灰化物を形成し、痛みや開口制限を特徴とする疾患である。SCは従来の画像検査であるパノラマX線画像では検出困難な場合があり、顎関節症と同様な症状を呈することがあるため正確な診断が遅れることがある。そのため誤った治療方針が立てられ不利益を生じることがある。したがって早期に正確な診断が重要となる。 最近では、CTを用いたSCの症例報告がされているが、ほとんどが顎関節の周囲に大量の石灰化物を伴ったものである。しかし、石灰化物のない症例もあるため、石灰化物以外で特徴となる画像所見を分析し、顎関節症との違いを評価することはSCの早期発見に有用となる。 そこで本研究は、愛知学院大学歯学部附属病院で病理組織学的にSCと診断された過去の症例の中からCTを撮影した症例を用いて画像所見を検証することを目的とする。
	実施責任者	公表不可
3	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
	実施責任者	鳴崎 義浩
4	研究課題	歯科受診による口腔の健康増進効果の検証
	概要	公表不可
	実施責任者	北村成孝
5	研究課題	愛知学院大学歯学部附属病院歯内治療科の来科患者における根管破折器具に関する後ろ向き調査
	概要	公表不可
	実施責任者	長尾 徹
	研究課題	人工知能(ディープラーニング)による口腔領域疾患の診断システムの構築

平成31年度 第4回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

6	概要	<p>人工知能(AI)関連技術のうち最近注目されているものの一つが、ディープラーニング(深層学習)です。ディープラーニングは、多層ニューラルネットワークを用いたコンピュータ学習の一種で、識別に有効な特徴量を人間が定義することなしに、学習の一環で自動的に獲得します。ディープラーニングを医療分野に応用しようとする動きは進んでいます。</p> <p>本研究の目的は、このディープラーニング技術を用い口腔悪性腫瘍及び白板症等の粘膜疾患の画像診断システムを構築することです。口腔内写真、パノラマX線画像、顔面頭部X線画像、CT画像、PET-CT、MRI、超音波画像の収集は愛知学院大学歯学部附属病院顎顔面外科学講座の画像データベースを用いて行い、口腔領域疾患患者約2000例を予定しています。抽出された画像は疾患毎に学習のための正誤付きのデータ(訓練データ)と現在の学習状況を検証するためのデータ(検証データ)として使用します。多層ニューラルネットワークを用いて、学習・検証を繰り返すことにより、画像分類(診断)や物体検出(病変の自動検出)を行います。開発されたシステムの性能は、専門医による診断と比較することによって評価していきます。</p> <p>ディープラーニングによるスクリーニングは、口腔悪性腫瘍の早期発見や歯科医師の「画像診断支援」として重要な役割を果たすことが予想されます。専門医のいない地域および歯科診療所における口腔悪性腫瘍および粘膜疾患のスクリーニ</p>
7	実施責任者	中村 信久
	研究課題	循環器疾患とアディポサイトカインの相互関連性の解明
	概要	公表不可

平成31年度第4回歯学部倫理委員会議事録

日 時：令和元年11月7日（木） 15時00分

場 所：歯学部基礎教育研究棟 第1会議室

出席者：前田、長谷川、長尾、武部、松原、高木、黒神、柿田、鏡山、鈴木（顧問）

欠席者：本田、池田、野本

開 会：15時05分

報 告

1. 平成31年度第3回倫理委員会議事録について

委員長から、資料に基づき報告があり、原案どおりこれを了承した。

2. 委員長決裁案件について

委員長から、研究等変更審査申請のあった1件および条件付き承認となっていた1件について、申請書類等の回覧審査を行い委員長決裁による承認とした旨、報告があった。

3. 研究等終了（中止）報告書について

委員長から、資料に基づき4件提出があった旨、報告があった。

4. 新委員選出について

委員長から、委員長より推薦のあった2名（口腔病理学講座 杉田准教授、歯科矯正学講座 田淵准教授）についてメール会議を行い各委員より承認が得られた旨、報告があった。

また、11月13日開催の歯学部教授会で新委員選出について報告し、承認を得た後に当該教員に承諾書及び委嘱状を送付することを併せて確認した。

議 題

1. 委員長決裁案件について

委員長から提議され、研究等変更審査申請のあった1件および条件付き承認となっていた1件について委員長決裁で承認したい旨、説明があり、これを承認した。

2. 倫理審査について

委員長から提議され、新規7件の申請があり、申請者から研究の概要及び実施計画等の説明を受け判定したい旨述べられ、これを了承した。

次いで、申請者から資料に基づき説明があり、研究実施計画等について質疑応答があり、それぞれの申請課題について判定を行い、全会一致をもって次のとおり決定した。

7件の審査判定について、承認2件、修正の上承認4件、非該当1件とした。

次回委員会について

日時：令和2年1月30日（木）15時

場所：楠元キャンパス 1階 第1会議室

閉 会：16時35分